

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4271200588		
法人名	医療法人衷心会		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷361番地		
自己評価作成日	令和7年1月3日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和7年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念のもと笑顔で明るく、職員の笑い声は利用者様にも伝播しています。施設も光が入り明るく、隣に芝生の広場があり、天気の良い日は日向ぼっこやティータイムを楽しまれています。現在は感染対策の制限も緩和されて利用者様ドライブやご家族様との面会や外出も楽しまれています。利用者様の中にはご自分で化粧品の買い物に行ったり干し柿作りを行うなどの個別支援も行っています。去年は「秋祭り」を芝生でおこない、ご家族様や地域の方との交流を深めました。人材育成では職員の個の力を大切にし、それぞれの個性を認め合い支え合いながら、技術だけではなく心を大切にできる「人間性」を大切にしています。利用者様本位のケアを行うためにも相手の立場になって考えることができる人材を育成し、さまざまな事をチームで話し合いチームワークを深め、職員が働きやすいように定期的な面談で悩みや相談を聞いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は彩光が良く開放的なホールで、入居者が快適に過ごせるよう配慮している。ホールで脳トレやリハビリ体操を行ったり、毎月のカレンダーや季節ごとのホールディスプレイを入居者と一緒に作成し、季節の変化を感じられるようにしている。隣接する芝生広場では日向ぼっこをしたり、今年度は秋祭りを実施して地域住民や家族、行政担当者も参加し交流を深めた。より質の高い認知症ケアを提供を目指し、認知症ケアに関する専門的な研修を受けた介護職員を配置し、個別に認知症の行動・心理症状(BPSD)の評価を計画的に行い、生活の質を向上に繋げている。ヒートショックを予防するため、浴室・脱衣室の温度管理を徹底し温度差がある場合はブザー音で知らせるなど安全な入浴をサポートしている。ACPを実践し、チームで協力しながら入居者の意向を尊重したケアを提供できるよう取り組まれている。技術だけでなく、相手の立場に立って考えることができる「人間性」を重視した人材育成を行っていることが窺え職員間のコミュニケーションも円滑で風通しの良い職場環境づくりができており、そのことが入居者本位のケアの提供にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティングで理念の唱和を行い理念の共有を行っている。ユニットでの理念も決めて理念に沿う形でのご支援を行っている。	法人理念・事業所理念は職員がいつでも目視できるように、事業所内に掲示している。B棟は毎年年度初めにユニットの理念、介護理念をスタッフみんなで考えて、棟内掲示板に掲示している。カンファレンスの際に理念に沿った介護ができていないかを確認している。掲げられた理念を実施していくだけではなく、自分たちで考えて掲げる事でチームワークや支援に対する意識が高まっている。	日々のミーティングで理念の唱和を行い、理念の共有を図っている。ユニットごとに独自の理念(スローガン・目標)も決定し、その理念に沿った形で支援に努めている。理念は、職員がいつでも目視できるよう、ホーム内に掲示している。カンファレンスの際には、理念に沿った介護ができていないかを確認し、必要に応じて改善策を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝登校している子供たちに利用者様と職員であいさつをしたり、散歩に行った際は地域の方々とも会話されてペットの犬とも触れ合う等の交流もある。秋祭りも開催して地域住民の方々にもご参加頂き最近では散歩中の利用者様に近所のお子様から手を振って話しかけて頂けて利用者様もすごく喜ばれている。	近隣住民様とは日頃より散歩のときに顔を合わせたり、ボランティア清掃、地域行事などで交流をはかっている。自治会の育友会からも声を掛けてもらい、芋差しへも参加予定だったが、今年は雨でできなかった。コロナ禍でできなかった子供達との交流も今後再開していきたいと思っている。	日頃から散歩中などに近隣住民の方と顔を合わせる機会があり、ボランティア清掃や地域行事などにも積極的に参加している。今年度は中学生の職場体験の受け入れのほか、ホームの秋祭りには地域住民にも参加いただき開催している。コロナ禍で出来なかった子供達との交流も今後再開していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	波佐見町の取り組みで波佐見高校の認知症サポーター養成講座や地域の見守り模擬訓練のお手伝いを行い、町民向けのACP研修で施設での看取りの事例発表を行った。	今年で第4回目の徘徊見守り訓練に毎回スタッフとして参加している。町の認知症に携わるイベントに呼ばれて行くこともある。まごころではユマニチュードの実践をおこなっていることから、その対応を実践したり動画紹介に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設職員に新型コロナウイルス陽性者が発生し、延期することもあったが概ね2ヶ月毎に開催して各ユニットの状況や委員会活動などを報告し、意見交換をおこなっている。	運営推進会議は毎回違うご家族様へ声を掛け参加を促して、まんべんなく運営推進会議に参加して頂き、まごころの運営についてや利用者様支援の取り組みなどをお話し、意見交換をおこなっている。毎回議題を変えて委員会活動や研修報告、行事開催などをおこなっている。地域の方へも運営推進会議の日程は早めにお伝えし、日時調整をおこなっている。	毎回異なる家族へ参加を呼びかけ、運営推進会議への参加を促し、より多くの意見を伺えるように努めている。会議では、運営や入居者支援の取り組みについて話し合い、意見交換を行っている。毎回議題を変え、委員会活動や研修報告、行事開催などについて報告を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護イベントに参加した際に情報交換を行っている。不明な点がある時は電話や窓口で相談に行くようにしている。	何かわからないことがあったら行政尋ねるようになっている。運営推進会議の時にも長寿介護班の方からも助言を頂いたり、取り組みの報告をおこなっている。イベントへも行政の方にも参加して頂いた。地域包括とも様々な研修やイベントを一緒におこなっていて、地域との関わりが多い。	認知症キャラバンやACP(アドバンス・ケア・プランニング)による看取り事例の発表など行政や地域包括支援センターと密接に連携し、地域社会との繋がりを深めている。運営推進会議の際には、同町の長寿介護班の担当者からも助言を得ている。秋祭りといったイベントに行政担当者も参加していただくなど日常的に関わりがある。グループホーム連絡協議会と様々な研修やイベント等で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束は絶対行わない事を徹底している。施設内研修も行い職員で協議してグレーゾーンや判断に迷う場合には役場へ相談するようにしている。	身体拘束の委員会を設置し、外部研修参加や定期的な施設内研修もおこなっている。身体拘束禁止の対象となる具体的な行為・緊急やむを得ない3つの要件は、研修で周知のうえ職員が記録をする近くに掲示し、いつも身体拘束をしない意識付けをおこなっている。全てを暗記はできなくても、たまに見る事で身体拘束は絶対におこなってはいけないという意識はできていると思う。	身体拘束の原則禁止を全職員に徹底している。身体拘束委員会を設置し、3か月毎に委員会を開催して運営推進会議にも報告している。研修を定期的に行い、職員間でグレーゾーンや判断に迷う事例について協議し、必要に応じて行政にも相談して適切な対応について助言を得るようにしている。スピーチロックなど気になる言葉かけについて、もし自分の親に対する言葉づかいや対応であったらどうかといった視点で話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会を設置して事業所内で定期的に研修を行っている。	高齢者虐待についても委員会を設置(身体拘束・虐待)しており、外部研修、施設内研修をおこなっている。虐待に結び付かないように職員達のストレスケアにも気を配り、職員が悩みがありそうときは必ず面談をおこなっている。不適切ケアになっているのではないかと感じた時は、棟のラインなどで共有し、対処法や対応の統一に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は知識としてあるが、現在対象者が居ないため活用には至っていない今後活用が必要な事例も増えると思うため更に勉強していきたいと思っている。	成年後継人制度を利用して入所されて方もいる。グループホームに入所してから成年後見人制度を利用する事例はまだない。今後はご家族の高齢化や単身の方も多いため、活用していかなければいけないと思っている。実際、地域包括支援センターに相談に行ったことはあったが、活用には至らなかった。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用者様のご要望やご家族様のご要望の聞き取りを行い、事業所として可能な事とご家族様にご協力を依頼することをお伝えしてご理解を得られるようにしている。	契約時は重要事項説明書をもとに説明し、同意を頂いている。改定があった際は都度説明をおこない、同意書を頂いている。説明が十分にできているか心配な時もあるが、何か質問があった場合はわからないままにせず調べて後日ご家族様に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のケアカンファレンス前に利用者様へ困っている事やご要望を担当職員で聞き取りを行いケアプランに反映するようにしている。ご家族様へは変わりがあった際は連絡をするようにして運営推進会議や面会時などにも	本人には現在認知症チームケア加算のモニタリング、アセスメントもかねて毎月アセスメントおこなっている。内容は日常会話から拾うことも多いが、会話の中に本人の思いがあることが多いので、カンファレンスの際に報告し、本人の希望がかなえられるように支援するよう努めている。ご家族様へも連絡はまめにとっており、その際に利用者様の状況をお話したり、ご家族様の話を聞いている。利用者様の気持ちを代弁し、家族に伝えることもある。	現在、家族との面会は玄関で15分間対面で実施できるようにしている。家族の要望等は面会時やLINEでも把握でき、また、定期的に満足度アンケートも実施して意見等を汲み取るようにしている。入居者の意見や要望を把握した際はカンファレンスを通じて共有し、好みの化粧品購入など要望に対応している。認知症チームケア加算のモニタリングとアセスメントを行い、日常会話の中から、入居者の思いや希望を把握し、具体的な支援方法を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、日々のミーティングなどで意見交換出来るようにしている。会議やミーティングで言いにくい事は主任や管理者に気軽に面談出来るようにしている。	職員の要望や、運営に関して改正がある際は職員会議にて周知おこない、職員へのメリット、デメリットも話したうえで事柄を決めていくことが多い。職員の意見が出しやすい様にコミュニケーションを大切にしている。	毎月の職員会議、日々のミーティングなどで意見交換を行っている。会議やミーティングで言いにくいことは、主任や管理者と気軽に面談できる環境を整えている。職員の要望や運営に関する改正がある際は、職員会議にて周知を行っている。ハラスメント対策に関し、相談窓口を職員に周知している。職員が資格取得や外部研修へ参加する際は、勤務調整や各種補助金の助言等、配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の希望休や有休は希望通りに取得して頂くようにしている。シフトについても職員とその都度相談して希望を聞き取り行い可能な限り働きやすい環境整備を行っている。	職員の家庭的な事情、体調に合った、などの配慮をされている。過大な仕事を押し付けけるようなことはなく、職員も管理者も働きやすい環境が整備されている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月施設内研修を受けている。町内の研修を希望して受講する職員も多い。その他認知症介護実践者研修なども受講している。希望される研修には可能な限り受講していただくようにしている。また、管理者側から研修受講を提案し職員に受講して頂く事もある。	職員一人一人の力量に合わせ、職員がお互いに、個々の長所を生かせ合えるようなチーム作りをしている。自分自身、介護支援専門員の受験の際は勤務を調整させてもらい、勉強に取り組ませてもらった。主任が認知症介護実践者研修を受講し、認知症介護に関しての知識を高めた。認知症に関する外部研修が少なく、お茶の水フォローアップ研修(オンライン)を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士では他の事業所の管理者と電話での連絡や相談を行っている。職員間では町内での研修の際や川棚波佐見グループホーム協議会での意見交換の機会を設けるようにしている。	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流を図っており、職員同士の交流会などもおこなっている。職員の交流会には管理者は入らずに発言のしやすい様に配慮がなされている。県のグループホーム大会にも毎年参加し、他施設との交流に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅や施設を訪問して利用者様やご家族様、施設職員の方の話を聞いて不安なく入所して頂けるように努めている。	本人とコミュニケーションを多くとり、困りごとや不安な気持ちを傾聴する。本人が言えないことや、困りごとを表現できずにいる場合があるので、本人の様子を注意深く見ている。色んなことに気づく為にもご家族様へも事前の聞き取りをしっかりとおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談や契約時にご家族様の話を傾聴しどのような意向であるかを確認して可能な限り実現するようにしている。また入所後は小まめに連絡を取りどのように過ごされているかなどを報告している。	契約の時に入所に関するご心配こととお聞きし、ご家族様のニーズを聞いている。ご家族様の要望と本人様のニーズをすり合わせ支援をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅訪問時や施設訪問時などにご本人様やご家族様の意向を確認して担当ケアマネと相談して必要な支援を見極めている。必要に応じて歯科往診や訪問販売の利用も相談している。	入所前に本人、ご家族から話を聞き、必要だと思われる支援提供に努めている。入所前のサービス内容も聞き、できる限り継続できるように支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を大切に皿洗いや洗濯物、掃除や料理の具材切りなどのお手伝いやホールディスプレイの作成などを行って頂き職員と利用者様の間で「ありがとうございます」という言葉が飛び交っている。	共同生活の一員として、生活上の仕事などは職員、利用者様一緒におこない、「自分にできることはしたい」と言われるご利用者様に職員が裁縫を頼むこともある。得意なことをできる人がすることで役割もできる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員に出来る支援とご家族様にしか出来ない支援があることをお伝えして利用者様が寂しい様子があつた際などは面会のお願いや外出のお願いをしている。受診対応などもお願いしており、ご家族様にもご協力頂けている。	本人のニーズに沿うために、ご家族様へも協力をお願いし、ご家族様と本人がずっと繋がっているような支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況に合わせてではあるが、ドライブにて町内を回ったり、町内イベントである鬼木のかかし祭りも見に行かれています。民生委員の方やご友人の方の面会もあつている。	以前は友人との女子会に参加されるために同行したりしていたが、コロナ以降は疎遠になっていた。関係性継続にもご家族様のご協力をえていることが多い。	地域のコンビニエンスストアの移動販売車がホームを訪れ、本人に必要な金銭を渡して買い物を行ってもらったり、町内イベントである鬼木のかかし祭りを見に行くなど取り組んでいる。化粧品にこだわりがある方には近隣の店舗で購入できるように支援している。民生委員や友人との面会機会を設けるなど関係性を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やお手伝い、レクリエーションの際など職員が仲介を行い利用者様同士が笑顔で過ごせるようにしている。	共同生活の場で、利用者様同士仲良く暮らしていこうと話をされている。認知症により周りから苦言を受ける事があれば、職員が仲介に入っている。事前にいがみ合わない雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関に転院となった方のご家族が遠方にいらっしゃる場合などは必要に応じて可能な範囲で手続きのお手伝いを行っている。感染対策の状況次第ではあるが、面会に行かせて頂いたり、訃報の際には弔問も行っている。	地域密着型で、町との関りも多く退所された後も顔を合わせることもある。退所後に、入所中に撮った写真をプレゼントしたり、講演会の事例発表の為に情報の同意を頂く為に電話をしたり、退所後も連絡をとったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症専門ケア加算の活動の一環として毎月担当者がご本人様のご要望や困り事などを聞き取り行いご意向に沿ってケア内容の検討を行っている。ご意向確認が困難な場合も本人本位でのご意向をチーム複数名で検討している。	本人にアセスメントをおこない、望む暮らしの把握に努めている。自分で意思表示が難しい場合は、チームと一緒に話し合い、本人本位を考えて支援方法を検討している。	毎月、担当者が入居者の要望や困り事などを聞き取り、意向に沿ったケア内容を検討している。日頃から入居者に寄り添い、発する言葉や気持ちを汲み取り、意向確認が困難な場合でも、チームで話し合い、本人本位を考えて支援方法を検討している。認知症専門ケア加算の活動を継続し、本人の意向を尊重した、より質の高い認知症ケアを提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のケアマネさんやご家族様、介護サービスをご利用されていた場合施設職員の方へお尋ねするようにして把握に努めている。	入所前のアセスメントや、在宅療のケアマネさんから情報を得て今までどの把握に努めている。入所後も、ご家族様やご兄弟様に必要時は情報を頂くことがある。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファやケース記録での申し送り事項などで情報共有を行い、利用者様の出来る事を大切にしてお手伝いなどをお願いしてケアを行っている。	レクリエーションなどは好き好みが分かれ、得意な事、不得意なことが分かれてくる為、無理維持に参加は促さず、その人の好むレクリエーションを提供したり、同じ空間でそれぞれが楽しめるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が毎月モニタリングを行いご本人様のご意向や困りごとなどを確認して毎月のケアカンファにてチームでケアの内容を検討している。ケアプラン内容については必要に応じてご家族様の意向確認も行っている。	本人の意向を大切にしたいうえで、ご家族様の意向を合わせ、主治医にもその旨思いや現状を伝えている。医療的な事をケアプランに入れる際は、主治医や看護師、歯科医師などに相談、助言をもらいながら計画している。チームケアで毎月モニタリングをし、見直しを行っている。	認知症チームケア推進加算を踏まえ、個別に認知症の行動・心理症状(BPSD)の評価を計画的に行い、介護計画の実施内容を○×形式で記録に残している。認知症ケアに関する専門的な研修を受けた介護職員を配置すると共に医療的なことを介護計画に入れる際は、主治医や看護師、歯科医師などに相談・助言を得て計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り記録などで情報共有を行い検討が必要な内容やケアの変更内容などは必要に応じてLINEで職員へ周知するようにしている。	記録はケース記録に残し、特記事項は申し送り機能を利用して職員の把握に努めている。緊急の情報などは個人用法がわからないように注意し、ラインでの情報共有をおこなう時もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様のご意向を確認してどのようにすればニーズを実現出来るかケアカンファレンスで検討して実践している。必要に応じて家族カンファレンスも行いご家族様にもご協力をお願いしている。	利用者様の「その時」に出てきたニーズには、後回しせずにその時に対応する。利用者様の「その時」を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週セブンイレブンの訪問販売を利用してお買い物を楽しまれている。散歩へ出た際は近所のお子様やペットの犬とも触れ合うこともある。	今までの暮らしの継続で、地域と交流は重要視している。福祉イベントなどにも数名で参加したり、外部との交流が途絶えないように支援おこなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際にご家族様利用者様のご希望を確認して希望のかかりつけ医へ往診に来て頂いている。歯科往診も同様をお願いしている。	定期受診はかかりつけ医の往診がおこなわれており、急病やケガの場合は職員が受診対応している。眼科や皮膚科、定期検査などは利用者様の状態にもよるが、ご家族様に受診をお願いしている。検査結果を聞く際などはご家族と一緒に職員もいき、お話を聞いている。	かかりつけ医による往診を定期的に行っている。急病やケガの場合は、職員が受診対応している。眼科や皮膚科、定期検査などは、入居者の状態にもよるが、家族に受診対応を依頼している。入居者の健康状態や受診状況については、職員間で情報共有を行っている。家族や医療機関とも連携を取りながら適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師、准看護師の資格を持つ職員が在籍している。日々の健康観察を介護職員が行い健康観察を看護師が努め、医療連携看護師は24時間オンコール体制ですぐに主治医と連携できるようにしている。	看護師とも情報を共有し、相談、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合の情報提供や対応を確認して、入院後は早期退院に向けて病院側やご家族様と密に連絡を取り状態確認するようにしている。	入院が必要な時は、入院時または入院後、本人が入院中に適切に治療がおこなえるよう情報を入院先に伝えている。その際は認知症の症状もしっかり伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の意向確認は入所時や体調変化に合わせて都度ご家族様へ確認行っている。ご本人様の意向も可能な限りお伺いするようにしている。看取りについてはグループホームで可能な事をしっかりと説明して最期までその人らしくあるようにご本人様主体でのご支援やご家族様が希望されるケアを主治医、看護師、ご家族様と協力して可能な限り行うようにしている。	入所時に看取りに関する事前確認書を頂き、意向は変わってもいいことを説明している。重度化した場合の指針についても、入所契約時に説明をおこなっている。終末期に入所ころは、本人・家族・主治医・職員とカンファレンスをおこない、終末期の過ごし方についてを話し合っている。	入居時に看取りに関する事前確認書を用いて、意向は変わっても良いことを説明している。終末期には、本人・家族・主治医・職員とカンファレンスを行い、チーム全体で情報共有し、連携を取りながら、本人及び家族にとって最善の看取りができるよう取り組んでいる。グリーフケアを実践し、家族の不安や負担の軽減に努めている。職員はACP研修を受講するなど知識・スキルの向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入社時に教育を行い、急変時の連絡ルート、初期対応などはファイルに入れていつでも確認できるようにしている。	急変時対応の研修やAEDの研修をおこない、緊急時に備えている。緊急時連絡網を掲示している。初動対応の手順を定期的に見直している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防火管理者の指示のもと、全職員が避難訓練や初期消火訓練、災害訓練に参加して施設内研修もおこなっている。火災防止としては防災物品を使用して都度消防署にも相談して防火に努めている。現在、災害発生時の協力体制としては町内の他事業所とも協定書を結んでいる。避難訓練の際には地域の方へも連絡を行い自治会長にも訓練に都合がつけばご参加頂いている。	消防訓練・防災訓練を実施し、夜間・昼間の想定、水害時の想定の避難訓練を実施している。防火管理者より対策をおこなわれている。災害の外部研修にも参加している。	避難訓練では、夜間・昼間の想定、水害時の想定など、様々な状況を想定した訓練を実施している。直近では昨年11月に消防署立会いの下で総合訓練を実施し、地域の自治会長も参加した。災害発生時の協力体制として、町内内の他事業所と交通インフラ対策、福祉車両の借り入れ、職員雇用の確保等の連携協定を結んでいる。防火管理者による定期的なホーム内の点検や、防災設備の整備も行っている。	同町の事業所間で災害時の連携協定を締結されており、万一来備え、災害時における入居者受け入れ先施設についても職員や家族に周知しておくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への接遇を大切に言葉使いには職員同士で注意を行えるようにしている。施設内で接遇の研修も行っている。利用者様居室訪問時は必ずノックをして訪問する事を徹底して必要に応じてパーテーション使用してプライバシーの確保に努めている。	本人の人権尊重・プライバシーの配慮について施設内研修をおこなっている。スピーチロックにならないように研修を通して呼びかけている。	職員同士で言葉遣いについて注意し合い、常に丁寧な言葉遣いを心がけている。接遇や人権尊重、プライバシーの配慮など内部研修を動画視聴を活用しながら定期的に行い、職員意識の向上を図っている。職員は入職時に個人情報保護に関する誓約書を交わしている。入居者の居室を訪問する際は、必ずノックをしてから入室するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご本人様のご意向などをお尋ねするようにしている。希望される利用者様は一緒に買い物に行きご本人様が好きな化粧品や食事を選んでもらっている。	自己選択・自己決定を大切にしている。本人が自分で選びやすい様に選択肢を準備するような支援をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりが好まれる活動を提案してその方のペースで過ごしてもらっている。	すべての希望に沿うことは難しいが、それに近づく支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日馴染みの化粧水、乳液、ヘアクリームを使用されている方もおり、ご希望時は一緒に買い物支援も行っている。2ヶ月に1回出張美容にて髪を好みの長さにカットされている。	散髪は出張美容に来てもらって2カ月に一回散髪してもらっている。整髪料や、化粧品などは今まで使用されていた物を使われている。介助が必要な方も、いつもきれいな服で入れるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については母体の小島居病院の手作りの給食を提供している。ご希望の方は漬物やふりかけなども購入して使用している。定期的に刺身を購入される方もいらっしゃる。給食に追加で味噌汁の具材をカットして頂いたり、血洗いなども可能な利用者様にはお願いしている。	食事は給食でメニューが決まっているが、利用者様にお品書きしてもらい、配膳前のテーブル拭きや下膳を手伝ってもらっている。嗜好品で漬物や梅干しなどを一緒に食べられる方もいる。	母体病院の手作り給食を提供しており、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、できたての美味しさを味わえるよう取り組んでいる。配膳前のテーブル拭きや下膳など、可能な範囲で入居者に食事の準備や片付けに参加してもらい、残存機能を活かして役割を担う場面を作っている。嗜好、食欲、嚥下、体調などを把握し、食事内容や量、提供方法などを調整している。「食事や嗜好品摂取に関するアンケート調査」を行い、食事内容に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については毎朝希望される利用者様へレモンティーやコーヒーを提供しタブレットにて確認を行い午後までに500ml摂取出来てない利用者様には好みのジュースやココアなどを提供するようになっている。	それぞれに食事の摂取量や好みを把握し、水分や栄養摂取が少しでもできるように工夫をしている。主治医や栄養士に相談する時もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全利用者様口腔ケアの声掛けを行い必要に応じて介助を行っている。月に1回程歯科往診にてアドバイスや指導をもらっている。	毎食時後の口腔ケアは声かけから実施の見守りや、介助を要する場合も丁寧におこなっている。利用者様の口腔トラブルがあった時は、かかりつけの歯科医師・歯科衛生士に相談、助言をもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意がある方は可能な限りトイレに座って頂くようになっている。夜間はポータブルトイレ使用されている方も居る。タブレットを確認してトイレ誘導を行うようになっている。	排泄で失禁を減らす為、皮膚状態を清潔に保つために、排尿間隔が短い方は声掛けして定時に誘導をおこなっている。最初は嫌がっていた利用者様も今は自分からトイレに行くようになった。	全ての居室にトイレが設置されており、タブレットで排泄状況を確認し、適切なタイミングでトイレ誘導を行い、排尿間隔が短い方や汚染傾向がある方には声掛けを行い、早目にトイレ誘導を実施している。申し送り時には全ての入居者の排泄状況を確認し、入居者の状況に合わせて、排泄ケアの方法やタイミングの調整に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況の確認を行い必ず申し送りをし水分摂取に努めている。下剤の使用については主治医、看護師と相談して適切な使用を行い便秘には気を付けている。	下剤に使用だけではなく、水分摂取や野菜の摂取、運動などをおこなっている。下剤の調整もその人に合わせておこない、それぞれのパターンを把握している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はある程度決まってはいるが、ご本人様のペースに合わせて柔軟に行えるように予備の日も設定している。入浴拒否が強い方には毎日声掛けを行い清拭や保湿ケアの代替えケアを行うようにしている。	個浴でゆっくり入浴ができるようにしている。曜日は基本日としてあるが、本人の希望や状況により変更している。入浴剤で香りや色を楽しんだり、冬場はヒートショックにならないように浴室脱衣室を温めて対応している。	入浴日は週2回午前中に行っているが、入居者のペースに合わせて柔軟に対応できるよう、予備日も設定している。ヒートショックを予防するため、浴室・脱衣室の温度管理を徹底し、温度差がある場合はブザー音で知らせるなど安全な入浴をサポートしている。入浴中、職員は入居者とマンツーマンでコミュニケーションを図り、本人の心身の状態を把握しより適切なケアに繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やソファで昼寝をして休憩しながら利用者様のペースでお手伝いやレクリエーションを行い過ごされている。	枕の高さは人によって好みがあるので、高さがあるか聞いたり、枕の高さを調整することもある。着布団は施設提供であるが、なじみの布団を使われている方がほとんどで、		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際は利用者様の状態変化に注意するように申し送りを行い、必要に応じて主治医へすぐに連絡を行い相談している。	薬が変更になったりした場合は、注意深く観察し、変化を主治医に伝えたり、形状が服用しにくい物などは薬剤師や主治医に相談している。症状の変化、薬変更はご家族様にも伝えられている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が得意であった方は朝食の味噌汁の具材を切ったり干し柿作りも楽しまれている。洗濯物や皿洗いなどのお手伝いもして頂けている。毎日散歩に行かれる方もおり、ドライブにお連れするなどの支援も行っている。	それぞれに役割や好きな活動を把握し、個別支援をおこなっている。気分転換にドライブやお買い物に行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を希望される場合にはその場でご同行するようにして、毎日散歩に行かれる方もいらっしゃる。買い物希望される方には好みの化粧品やお刺身、肉まんなどの食べ物などもご本人様と買い物に行き自由に選んで頂くようにしている。ご家族様と島原城まで出かけたり、寿司やちゃんぽんを食べにいくなどご家族様にも相談してご協力してもらっている。	外出は可能ならばご家族と一緒に掛けられる。近隣には天気の良い日はいつも散歩に出かけている。イベントなどにも参加し、地域住民の方に車椅子を押してもらって参加したこともある。	天気の良い日には散歩を希望する入居者に職員が同行して出かけている。買い物希望する方には、近隣のドラッグストアや、コンビニ移動販売などで好みの化粧品やお刺身、肉まんなど自由に選んでもらう支援を行っている。家族と外食したり、遠方の島原まで出かけるなど家族と協力した外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方も居る。週に一回セブンイレブンの訪問販売にて買い物を楽しんでいる。希望される方にはドラッグストアで化粧品を選ばれたり、スーパーやコンビニに行き好みの食べ物を選んで購入されている。	毎週セブンイレブンの移動販売が来ることを楽しみにされていて、お金の心配をされるが自分のお金で支払いをして自分の好きな物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は携帯電話を所持されている利用者様もいらした。ご要望があれば事業所の電話を使用してご家族様に電話して話してもらうようにしている。	携帯電話を所有していた利用者様は入所後そのまま使用されている。利用差様から要望や、帰宅願望があった時はご家族様に電話をして話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、食事を食べる自席と自由に座れるソファとを用意している。毎月のカレンダーや季節毎のホールディスプレイを利用者様と作成している。	居室内の整理整頓は自分で出来る方は声掛けなどをおこないながら自分でおこなってもらい、ベッドメイキングを職員と一緒にこなしている。居室が窓と障子があり、障子が破れると妄想に繋がったり、被害的になることがあるので、貼り直しをしている。	ユニットそれぞれの共用空間は、明るく開放的なホールで、入居者が快適に過ごせるよう配慮している。午前10時にホールで脳トレやリハビリ体操を行ったり、毎月のカレンダーや季節ごとのホールディスプレイを入居者と一緒に作成し、季節の変化を感じられるようにしている。食事の際は入居者同士の関係性に配慮したテーブルの配置を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:A棟)	実践状況(ユニット名:B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席は気の合う利用者様同士で座って会話を楽しめるように考慮している。テレビ前のソファは自由席にしてゆっくり過ごされたり利用者様同士で座ってYouTubeなどを視聴するなど楽しんでいる。	利用者様の中には自分で鍵をかける方もいらっしゃるが、本人に見回りの時は開けさせてもらうことを了承を得ている。できる限りプライバシーを守れるように居室内は本人の空間で監視にならないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には居室の広さを考慮しつつ、ご家族様と相談しながら自宅から慣れ親しんだ物品を持参いただくようにしている。仏壇を持参されている方もいる。ご家族様の写真なども持参してもらうようにしている。	居室のレイアウトや、ベッドの種類(布団に今まで寝ていた方は超低床ベッドにしている)など本人に合わせている。布団やまくらなど、自分が使っていた物を使用してもらっている。居室にはご家族と一緒にとった写真を飾り、寂しくないような配慮をしている。	家族と相談しながら、自宅から入居者にとって慣れ親しんだ物品を持参されており、位牌など、宗教的な物品の持ち込みも可能である。居室には家族の写真などが飾られている。レビー小体型認知症の方に配慮してあえて職員の子どもの写真を掲示することで、本人が温かい気持ちになったり、親近感を覚えたりしている姿が窺え、会話のきっかけにもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様によっては自室がわかるように表札を用いたり、弱視の利用者様は本人希望で居室のドアに鈴を付けられている方も居る。棟内は手すりを取り付けており、安全に歩行出来るようにしている。	居室や入口に「自分の居場所」「自分の部屋」がわかるように写真や、名前をわかりやすくしている。共有スペースにはカレンダーを毎月作成し、(利用者様と作る)時期や日にちがわかるようにしている。食事のメニューも毎食掲示していて、食事の楽しみに繋げている。トイレがわからない方へも、イラストでわかりやすく工夫をしている。		